

# 2学年通信

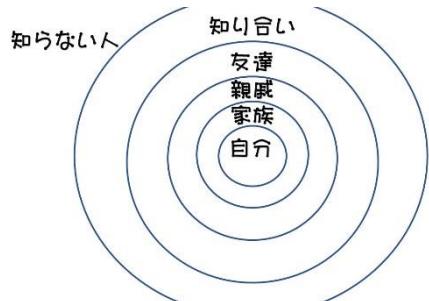
新宮町立新宮東中学校  
令和7年4月24日 第11号  
文責:江頭 俊輔

## [手の届く範囲は助けよう！]

さて、昨日の学活の時間に体育会の選手決めを行いました。今年度も昨年度同様、競遊種目（創作ダンス・大綱引き・防災リレー）の3つの中から自分の出場する種目を決めています。私の経験上、こういう選手決めの際には、自分が希望していた種目になれたという人は少数派なはずです。多くの人が「希望してなかつたけど、」と前置きしてその種目に決めてくれているはずです。それでもひとつひとつの種目で順位は出ますし、ブロック優勝のためにはみなさんの頑張りが欠かせません！もっと言えば、道徳の時間に確認した体育会でめざす姿に近づいていくためには、前向きに頑張って、仲間を引っ張っていくことが大切です。明るく体育会学習に取り組むみなさんの姿を期待しています。

私がみなさんにもっと考えてほしいのは、1年生たちのことについてです。昨年度みんながちょっと不安な気持ちを抱えて体育会学習に臨んだのと同じように、1年生はちょっと不安な気持ちで体育会学習に臨もうとしているはずです。4月28日（月）には、ブロック結団式が予定されており、本格的に体育会学習が始まります。**1年生の後輩に優しく、3年生の先輩の姿に感動しつつ、「来年は主役だ！」という気概をもって学習に励もうとするみなさんに、大人気マンガ呪術回戦の一場面から、大切なことをお伝えしたいと思います。**

呪術回戦の一巻の冒頭で、主人公虎杖悠仁（いたどりゆうじ）の祖父が病床で、悠仁に対して伝える言葉がとても印象的で、私も大切にしています。「オマエは強いから人を助けろ。手の届く範囲でいい、救える奴は救っとけ。迷っても感謝されなくとも、とにかく助けてやれ。」主人公の虎杖はこの言葉を胸に「生き様では後悔したくない。」と困難なことにも立ち向かっていきます。主人公の器の大きさが呪術回戦の魅力のひとつでもあります。

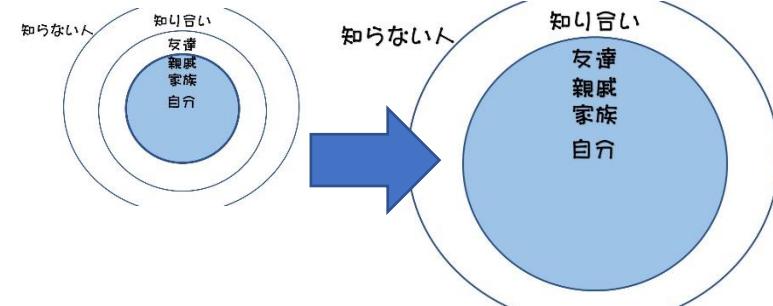


## [自分の円を広げよう！]

手の届く範囲の人を助けるためには、どうしたらいいのでしょうか。私は、自分を中心とする円を広げていくことが大切だと思います。（右図）私ももちろんそうですが、人間はまず、自分自身のことについて安全を確保したり、大切に考えたりします。状況にもよると思いますが、その次は長い時間を共にしている家族ではないでしょうか。そしていとこをはじめとする親戚や友達など、自分という円の中心に近い人を助けようとするのが人の性分だと思います。

**手の届く範囲の人を助けようとすると、自分を中心としたこの円を広げていくことが大切だと思います。これを日本では「器」という言葉を用いて、「器が広い」と表現します。（下図）**

いよいよみなさんは中学2年生なので、「自分のこと」以上に「後輩」や「新宮東中学校の伝統」のことを見てほしいです。これは、下図でいうところの「知らない人」の部分かもしれません。自分とは遠い存在だから、なかなか自分から一歩を踏み出すことができないかもしれません。そんなときこそ、この円を思い出して、「円の範囲を広げていこう」と意識し直してみてください。



円が大きくなるほど、多くの人と関わることができ、人生がより豊かになるはずです。